



the Best Coach

高校用

日常学習から大学入試まで

STANDARD

標準問題集

EXERCISE

国語 I・II 新課程 現代文

高校国語教育研究会 編

受験研究社

STANDARD EXERCISE

高校用・標準問題集

新課程

国語 I・II 現代文



受験研究社

はじめに

現代は、多様な価値観が錯綜している時代といつていいでしょう。時代が混迷に陥れば陥るほど、「現代」という時代認識の的確さが要求されます。このような状況の中にいる諸君には、ことさらに「現代文」の力が要求されているということの自覚が必要です。共通一次試験における「現代文」の配点をみてください。その配点の大きさは、時代の要請でもあるのです。

「国語Ⅰ・Ⅱ」の「現代文」は、どちらかといえば地味であり、学習の努力のわりに、はなやかな成果を獲得することのむずかしい分野です。このことをもって、「現代文」は、「常識なんだ。やってもしかたがない。」と自ら逃げをうち、その重要性をうすうす感じとりながらも、放棄する人が多い傾向にあることは諸君自身をご存知でしょう。そして、それらの人たちが最終的に悩むのもまた、「現代文」であるという事実も、確かなのです。

この問題集は、右のような時代の要請と諸君の現状をふまえて、諸君に読解の的確さを要求することを中心にして作成しました。大学入試を突破するには、日常の言語生活を維持する言語能力のレベルでは、とうていまにあいませんし、また、その問題が技術瑣末的なものを求める時代は過ぎ去りました。本格的な力がためられるようになったのです。この問題集は、そのような要請に、必ずや、かなうものです。この一冊をやり終えたとき、諸君には、「現代文」を本格的にとらえる力が、みずみずしく、あふれていることでしょう。健闘を期待します。

著者しるす

目 次

第1章

論説・評論

(1) 23

(1) 社会論

2

(2) 芸術論

6

(3) 文化・科学論

10

(4) 人生論

14

(5) 言語論

18

第2章

随筆・随想

(24) 46

(1) ひと

25

(2) 日常

29

(3) 自然

33

(4) 文化

37

(5) 生

41

第3章

小説

(47) 69

(1) 語句

48

(2) 構成

52

(3) 表現

56

(4) 心理

60

(5) 主題

64

第4章

詩・短歌・俳句

(70) 92

(1) 詩 I

71

(2) 詩 II

75

(3) 詩の鑑賞

79

(4) 俳句

83

(5) 短歌

87

第5章

文学史・その他

(93) 115

(1) 文学史 I

94

(2) 文学史 II

98

(3) 言葉の知識 I

102

(4) 言葉の知識 II

106

(5) 漢字の読み書き

110

総合問題

116 124

解答編

別冊

付録 / 近代文学の流れ

裏見返し

第1章 論説・評論

要点整理

① 論説・評論文読解のポイント

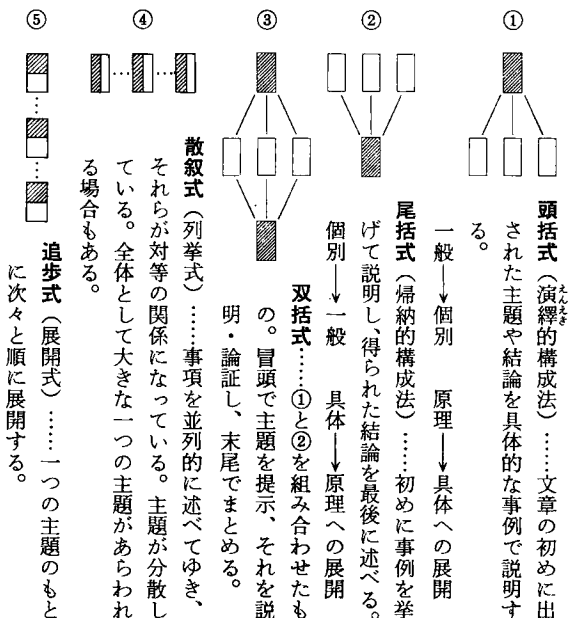
論説・評論文を読むとき大切なことは、まず、筆者の主張するところを的確につかむことである。そして、その結論を明確化するために採用されている論の展開の方法をしっかりとおさえることである。このジャンルに属する様々な文章には、それぞれ文表現（語の採用の仕方・比喩など）における個性はあるが、基本的に、論点として論の展開（構成）この二つをしっかりとおさえればよい。

② 論点把握の方法

論説・評論文における論点の把握はそう困難ではない。形式的には、論の構成として明確に提示され、一見してわかることが多い。しかし、内容的に複雑な文章の場合、そう簡単にはいかない。その場合には、筆者の主張のための素材的要素に属する部分と属さない部分との分別が第一条件であるし、さらに、後者の部分における筆者の断定判断を抽出することが必要である。このとき、特に断定などの助動詞に着目し、その筆者の意を表現するキーワードを浮き彫りにする必要がある。

③ 論の構成

基本的な論の構成には次のようなものがある。あくまでも基本的なパターンではあるが、身につけておくと、理解する場合でも表現する場合でも役に立つ。



以上のうちで、現代文中多くあらわれるのは、①②③の形式である。

1 社会論

基本

1

《接続詞・表題》

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

自動車の運転をはじめたばかりの人は、自分の手足の動きのひとつひとつに、かなりの神経をつかうものだ。はじめは緊張の連続である。しかし、何年も運転しているうちに、この緊張はすっかりとれる。手足の動きに気をつかわなくても、車は動くのである。(A)、熟練していない人にくらべて、ずっとスムーズに動かすことができる。

外国など、知らない土地に行ったとき、私たちはとまどいを感じる。これは、その土地の風俗慣習に慣れていないためである。いわば、この熟練がないためといってよいだろう。私自身の経験でいうと、たとえば公衆電話ひとつかけるにしても、日本の国内でならばほとんど無造作にできることが、じつに厄介に思われる。そこには、別の緊張が必要になるものだ。しばらく滞在していると、それも慣れてきて、やがて緊張はとれてしまう。

日常にくりかえし、慣れきっているものごとは、あまりにも当然すぎて、特別に気にはならない。ちょうど呼吸していることを、ふつうの状態では気にしないのとおなじことである。私たちの日常は、そのほとんどが、このように日常化・慣習化された部分によって占められているといえる。慣習は、ふだんは空気のような存在のように、ほとんど気にならない。(B)、異なった慣習とぶつかってはじめて、その存在に気づくようなものである。

私たちの行動の様式、あるいは文化のパターンは、このように慣習化され、ほとんど意識されずにおこなっているような、日常生活のなかに、かくされているようだ。その型の存在は、ふだんは自覚されていない。



POINT

解法のポイント

1

【出典】 米山俊直「日本人の仲間意識」の一節。

要旨

自動車の運転が、熟練によって上達するように、日常の行為の大部分は習熟・熟練の結果である。それは日常化・慣習化され、ふだんはほとんど意識されることとなしに日常生活の中にかくされている。

語釈

慣習……似た言葉の「習慣」は、個人的日常生活について用いられ、「慣習」は、広く社会に承認されている伝統的行動様式などを指すときに用いられる。

ヒント

問一 接続詞の問題である。前後の文脈や文の接続の仕方(順・逆)をみるとよい。

問一 () A・Bに補う語を次から選べ。

(7)しかし (1)しかも (2)むしろ (3)さらに

問二 () 表題として適切なものを次から選べ。

- ① 日常の経験 ② かくされた型 ③ 緊張と行動 ④ 日常化された慣習と行為

〔国士館大・改〕

2

《空欄補充・対応語》

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

われわれの生きている社会は、専門的職業によって暮らしをたててゆく社会である。餅は餅屋にまかせ、病氣は医者にまかせ、看護は看護婦にまかせることが、変なしろうとの口出しよりも能率もあがるし、よりよい結果が得られるんだ、という前提に立って、われわれの社会は再生産を行なっている。

そこでの思想といえは当然、専門の仕事の能率と業績をあげる④□□□□ということになる。職業についたわれわれが最初に学ばなければならぬのは、そういう④□□□□である。そこでは、自分の選んだ専門の職業をどううまくこなすか、ということが思想の全部になってしまふところだ、こうした④□□□□は手段の思想だから、当然その技術は、だれにとつて何の役にたつか、ということが問われなければならないはずである。しかし実際には、専門職業がサラリーと引き換えに行なわれ、サラリーは昇進と比例するわけだから、④□□□□はたえず、サラリーと昇進を目的とする思想になりがちである。

ところが、専門技術の思想だけが一方的に肥大すると、その技術のよしあしや価値は、もっぱらお医者さんや看護婦さんの仲間によって決められてしまふことになる。こういう現象は、経済学上『独占価格・管理価格』と呼ばれている。品物のよしあしを決め、価格を決めるのは、

①□□□□であるわれわれ、すなわち買い手であるはずなのに、売り手である②□□□□が品物のよしあしをし、したがって価格を決めて一方的にわれわれにおしつけてくるのである。ここから、技術の思想をサラリーや昇進に結びつけるのではなく、ほんとうの人間的目的に結びつける必要が生じてくる。

2

【出典】久野収「神は細部に宿りたまう」の一節。

【語釈】

独占価格……独占企業が市場を独占するときに成立する価格。自由競争による価格より高く決められる。

管理価格……市場の需給作用にゆだねずに、企業同士の暗黙の了解によって設定された価格。企業間の協定によるカルテル価格とは区別する。

【ヒント】

問一 「そこでの思想」を言いかえた言葉でもある。つまり、「専門的職業によって暮らしをたててゆく社会」での思想であり、一方、「どううまくこなすか」「手段」が条件となる。

問一 □□□□に相当する語句を次の中から選び、記号で答えよ。

- ⑦ 自然の思想 ⑧ 原理の思想 ⑨ 専門の思想 ⑩ 技術の思想

問二 □□□□①・②に相当する語を次の中から選び、記号で答えよ。

- ⑦ 生産者 ⑧ 経済学者 ⑨ 消費者 ⑩ 加害者 ⑪ しろうと
問三 () 傍線に対応する語句を、文中から抜き出して示せ。(法政大)

標準

3 次の記事を読んで、後の問いに答えよ。

現在米ソ両国は、全世界を何回か①破壊しつくすだけの核兵器をもっている。今から五十年前には、世界を一度でも破壊しつくす能力をもった国は、一つもなかった。もしそうした破壊力をもとうとすれば、国の全面的な軍国主義化や、その下での人的・物的資源の根こそぎの動員、国民の②消費生活のドン底への切り下げなどを行っても、まだ足りなかったであろう。

日本の軍隊についても同じことがいえる。自衛隊の火力は、すでに一九六〇年代には戦前の日本軍の火力の水準をこえてしまったといわれる。だがそれだけの破壊力を自衛隊にもたせるために、これまでのところ、戦前なみの軍国主義化や消費水準の切り下げがおこってはいない。五十年前には考えられなかった巨大な破壊力と豊かな消費生活とが、同時に達成されているのが今日の特徴であり、それを支えているのは現代の高度のテクノロジーである。ここからいくつかの問題が生ずる。

第一に、恐るべき軍事的破壊力を保持することが直ちに消費生活に影響を与えないため、消費文化にドブブリとつかった人々は、この破壊力の存在を忘れがちになる。もちろん軍事力の維持や増強は③無償ではすまないから、いずれは国民にツケがまわってくる。

ただそれにもかかわらず現代の特徴は、軍事費に対する国民の租税④負担感の程度に比べ、⑤桁違いに大きな破壊力が生み出されている

点にある。米国の国民は軍事費負担を感じてはいようが、それが全人類を何度もまっ殺できる破壊力を支えているという実感はもちにくいのである。

このようにわれわれの想像を絶するほど破壊の⑥効率が高いという事実は、二面的な意味を帯びている。一方で、それはいったん核戦争が⑦勃発すれば、きわめて短時間にわれわれの消費文明が⑧廃墟と化することを意味している。いわば破壊セクターのテクノロジーが、生産・消費のそれに対して⑨隔絶した優位に立っているのだ。そのことは、消費文化の日常性をもつ脆さ（ちようさ）とむなしさを示している。

にもかかわらず、他面で破壊技術の効率が低いからこそ、現代の軍事技術のシステムは、日常的には消費文化を大きく規制することなしに存続し、その結果多くの人々は、消費文化の脆さを意識せず、また破壊力の存在さえ⑩忘却しがちになる。

第二に、……〔以下略〕

（坂本義和「軍事化の落とし穴」より）

問一 傍線①～⑩の漢字の読みを、ひらがなで記せ。

問二 消費文化にドブブリとつかっていると私たちは何を忘れがちになるか。この文章に即した場合、次の答えの中から最も正しいと思われるものを二つ選んでその番号を示せ。

- ① 生産過程の大切さ
- ② 現代的消費文化の脆さの自覚
- ③ 今日における省エネルギーの必要性
- ④ 巨大な軍事的破壊力の存在
- ⑤ 禁欲的態度の大切さについての意識

問三 ①～⑤ それは何を指すか。文中の言葉で答えよ。

（法政大）

4

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

いまになって、ふり返ってみると、迂闊なことだし、自らの不明を悔いねばならぬが、昭和二十年八月十五日、この日を境に、ふるい日本の価値の体系は、ことごとく全面崩壊した、と私たちは思い込んだものだった。果たして、そうだったのだろうか。

考えてみれば、明治開国の三大「国是」は、文明開化、殖産興業、富国強兵であった。迂闊というのは、まさにこの点だが、敗戦の痛手と悔悟から、新生日本を目指して、さまざまな改革が打ち出され、民主主義日本の再生に、明るい前途の希望を託したとき、明治の三大国策は否定されるどころか、かえって無傷のまま、そっくり民主日本に引き継がれてしまったのだった。

もともと、物資の極端な欠乏とそれをコトするための神がかり精神主義の跳梁が、国民生活万般を締めあげてきた後だけに、その反動としても、文明開化・殖産興業「信仰」が、戦後社会を支配したことには、心理の必然がなかったとはいえない。

その上、戦争中の固陋な国粹主義の反動が、鹿鳴館いらいの外国崇拜を復活させ、④さらに厄介なことは、戦後の「外国」が、ヨーロッパではなく、豊富な物資と結びついた戦勝国アメリカとして現れたことにあった。

闇市では、⑤「リグレーのチュウインガムと草餅」が、一緒に売られていた、という山下論一の当たり前の指摘に、虚をつかれる思いをしたことがある。つまり、「アメリカの地方出身の、とても知的レベルの高いとはいえない兵士たちが、アメリカのモノを闇市に横流しし、それを、日本のローアークラスの人がまず手にすること

の中に、明治とはまったく逆の文化変容が行われた基因の一つがある」というのだ。
(安田武「ジャパンアズナンバー」より)

問一 波線で示したかたかなを漢字に改めよ。

問二 傍線部②「さらに厄介なこと」とあるが、なぜ「さらに厄介」なのか。最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記せ。

- ① 外国崇拜になったはずだが、実はモノ崇拜になってしまったから。
- ② 知的レベルの低い米兵と日本の庶民が、直接結びつくことになったから。
- ③ アメリカは戦勝国のため、物質文化をかなり強引に浸透させることができたから。
- ④ ヨーロッパ文明を受け入れていた日本としては、方向転換しなくてはならなかったから。
- ⑤ アメリカを敵国として反発していたのに、受け入れる姿勢に変わることになったから。

問三 (■) 傍線部⑤「リグレーのチュウインガムと草餅」が、一緒に売られていた」のはどういう意味をもつか。最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号を記せ。

- ① アメリカのモノが庶民に入ってきたこと。
- ② アメリカと日本の区別がうすれてくること。
- ③ 外国の意味がヨーロッパからアメリカに移ったこと。
- ④ 戦後間もないのにアメリカと密接な関係になったこと。
- ⑤ 高級なものとなりふれたものが同等にあつかわれていること。

(2) 芸術論

5-1 基本

5

《書き取り・接続詞・内容吟味》

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

小説について考える場合は、現実という観念が、まず実は問題とならなければならない。ある小説が、現実的だというのは、万人に常識的に①「シヨウニン」されている、既成の現実像を、いわゆる②「ツウゾク」的な意味で客観的に模写した場合を指すのではない。③「」読者の中の出来合いの、万人向きの現実像を打破する、強烈で独自の現実像を提出してくれている作品をいうのである。④「」読者が日常の感覚の中で、⑤「シユウカン」として身につけている、現実のイメージの一部を、切り抜いて⑥「ガクブチ」に入れてみせてくれるのでなく、その作品を読み終えた後では、現実が従来とは異なったものに見えて来るような、種類のものが、真に現実的なのである。

⑦「」小説の中にある現実とは、いわゆる日常生活の中での読者の現実よりは、さらにより現実的であり、現実より現実的な世界を仮構することが、すなわちフィクションである。小説は⑧「キノク」上事実が使えないから、やむをえず、フィクションをするものでなく、フィクションによらなければ、文学的現実には⑨「トウタツ」出来ないからである。

問一 傍線部①～⑨のかたかなの語を漢字に直せ。

問二 空欄①～③に入れるのに最も適切な言葉を、左から選んでそれぞれの記号で答えよ。

- ⑦ つまり ① すなわち ② しかし ③ そして

問三 筆者は「現実」をどのように考えているか。五十字以内で説明せよ。(東海女子大)

POINT

解法のポイント

5

【出典】 中村真一郎「文学の創造へフィクション」の一節。

中村真一郎(一九二〇～)……小説家、文芸評論家。

語釈

フィクション……虚構。文学上の一技法で、創作の際、事実でないことを事実であるかのごとく組み立てること。

ヒント

問二 ⑦・①・③は、順接としては共通し、同格の多様性をそれぞれ示している。③から決定するとよい。④は、言いかえとして機能している。

6

《書き取り・指示内容・内容吟味》

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

科学と芸術とちがうところは、他人がその経験によって得た知識を、科学者はそのまま使うことができるが、芸術家には使えないということである。沢山の経験（意図して組織的に行なわれる経験が実験である）の結果、たとえば抗生物質が化膿菌感染に効くという知識がえられたとする。私は私自身の化膿菌感染症例に抗生物質を使うために、同じ経験を①ハンブクする必要はない。他人の経験によって確立された用法に従って投与すれば、ただちに②コウカがあるはずである。しかし多くの人が多くの経験によって、たとえば薬師寺金堂の三尊はりっぱな彫刻であるという知識をえたとしよう。美術史の本にもそういうことが書いてあり、多分、三尊のなかでも殊に月光菩薩がよいということさえ書いてあるかもしれない。この他人の経験による知識は、それだけでは私にとって全く意味がない。そこに意味が生じるのは、私自身が同じ経験を重ね——つまり彫刻なるものをいくらかみて、殊に日本の仏教彫刻をいくらかみて私自身の「眼」を訓練し、その上で私自身が金堂三尊、殊に月光菩薩をよいと感じたときである。すなわち芸術に関しては、他人のすで行なった経験を、私自身がどうしても③クリカエさなければならぬ。それが月光菩薩と抗生物質の質のちがいといってよからう。しかし「眼」をある程度まで訓練すれば、薬師寺金堂の月光は、誰にも必ずよいものであるうか。おそらく必ずということはあるまい。訓練された眼でみてもつまらぬということがあるかもしれない。いや、そういう場合がきつと出てくるはずなのであって、さればこそ、芸術作品の評価は人によってちがう、ということになるのである。

問一 傍線部①～③のかたかなを漢字に書き改めよ。

問二 波線部「月光菩薩と抗生物質の質のちがい」の④「月光菩薩」、⑤「抗生物質」は何を指しているか。

問三 芸術的经验において「眼」を訓練するとはどういうことか。文中の表現にならって二十五字以内で説明せよ。

（清泉女子大・改）

6

【出典】 加藤周一「芸術論集」〔Ⅱ芸術家の個性〕の一節。

加藤周一（一九一九～）……文芸評論家。「加藤周一著作集」がある。海外でも活躍し、そのグローバルな視点から、様々な評論活動を行っている。

「日本文学史序説」などは、一読しておくといふ。

【問題】

抗生物質……かびや放線菌・細菌によって作られ、他の微生物に有害な作用を有する物質。

三尊……薬師三尊は、薬師如来・日光菩薩・月光菩薩。

菩薩……仏陀（ぶつだ）となることを理想として修行するものをいう。

【ヒント】

問二 冒頭の一文に筆者の論点が整理されて示されている。つまり、科学と芸術との相異を以下述べているのである。

問三 「文中の表現」「二十五字以内」に着目すること。

標準

1 次の記事を読んで、後の問いに答えよ。

中也是本質的には魂の(X)詩人だった。魂という倦き果てられた言葉が実際に生きているような詩人は西洋にでも近代では稀にしかない。心とか精神とかいうのでは足りない熱烈で無意識で全的にみざる魂というものが眼醒めた詩人は若い日本では中原が最初の人ではないかと思う。彼は新しく眼醒めた初々しい魂を抱いて素漠たる東洋の気層と文明都市を転び廻つては頌歌と悲歌をさりげない古風な格調に託し、愛情をもてあましては切なくも大審判をやつていた。信仰を口にするのが愧じられるこの世紀に中原は真向から神を信じ、詩を信じ、生命を信じ、一元的な実在のよろこびを信じ、すべてそういうものの一元を信じていた。その一つのものにもぐり入ることが彼の念願だった。言葉は変わってもこの単純な一筋の道への信仰は変つたとは思えない。①中原は傲然たる信仰をもつて謙虚を説き、無意識を説いた。存在のパラドックスにこの新しい魂は狂うばかりに翻弄されて焦り立った。嬰兒のような魂にあるいは恩寵を歌うために恵まれたのかもしれない豊富繊柔な感性は一度神の犠牲獣となつてはこの一つの道の流血をどれほど無残なものにしたかもしれない。彼は決して神秘論者や観念論者ではなく、飽くまで魂に活かされた肉身の持続で歌った。しかしどこかで頌歌である彼の歌はどれもこれも臨終の歌だったようにも思われる。中原は絶えず絶望の突端を渡つて歩いていった。そういうところでコスミックな

温い肉身の血が通つた中原の歌はたしかにかけがえのない日本の(Y)声だったのだ。

近年、殊に鎌倉に移つてからは会うこともいたつて稀になっていたが、十年前に初めて会つてから、一頃は下宿もすぐ近くに越して来て毎日会つていた。文学上の交りというよりももっと(Z)な交りだった。一種天下一品の陶酔と悲しみにずいぶん私は潤されたが、私の気の長い調子は度々彼を苛だたせたことだらう。

(阿部六郎「中原中也のこと」より)

問一 文中の空欄には文脈から考えてどの語を入れるべきか。次の各項の中から一つずつ選び、その番号を記せ。

X (1) 叙事 (2) 吟遊 (3) 抒情 (4) 新体

Y (1) 新しい (2) 眼醒めの (3) 呻吟する (4) 恩寵の

Z (1) 社交的な (2) 感性的な (3) 精神的な (4) 人情的な

問二 問題文中の波線部②の「中原は傲然たる信仰をもつ」たという点について、その点をより詳しく説明している部分を問題文中から抜き出せ。解答は初めの部分三字と終わりの部分三字とを(句読点は除く)記せ。

問三 (次問) 問題文の論旨と、文の内容とが適合しているものを次の各項の中から三つ選び、その番号を記せ。

① 西洋でも中世以前には魂の詩人は存在しなかった。

② 中原は信仰の世界を歌う精神の世界に生きた。

③ 絶望の突端を歩く中原はコスミックな存在である。

④ 阿部は中原との交友で自身を豊かにされたという。

⑤ 中原は神に捧げられた犠牲獣として血を流して歌う。

⑥ 中原はうまい魂を新風の格調で歌った。

(日本大・改)

8

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

生活はどの時代にも、どこの世界にもある。芸術はそうはゆかない。芸術は文化の一部であり、文化とは生れて死ぬものだ。京都へ行く度に私の感じることは、実はただ一つしかない。要するにそこには動かすべからざる緊密な秩序、生活のすべての要素を密接にむすびつける一個の全体としての文化があったということである。その寺の屋根の反りと民家の壁、その春と秋、その山と夕陽と女の顔だち、言葉の①ヨクヨウ、「古典」の概念、「教養」という確かな実体の手応え、——そのすべてがどの部分をきり離してとり出すこともできないほど、密接に関連し、調和し、一体となっている。その全体が文化であって、芸術もまたその文化のなかでしか生涯の念願となりえなかったろう。生活の芸術化とは、京都とその文化を前提としてはじめて成りたった夢想である。日本の文化の伝統の一つは、このような生活の芸術化という志であり、それは茶人において徹底したと、私は思う。②茶人にとつての「生活」は、彫刻家にとつての「石」である。われわれの先祖は石を彫らなかつた。だから生活を彫ったのだ。これが少くとも一六世紀以降の状況であった。しかし最近になって、その状況は変わった。変り方は、一文化の崩壊ということに関係している。文化が崩壊し、芸術の価値に対する確信が失われ、活気にみちた人間の生活だけがのこった。その③は、自己を表現しようとするときに、もはや④を⑤コリヨしない。すなわち芸術を生活に還元しようとする意図があらわれるので、その意図の結果を総称してわが国では「近代文学」という。そこで文学の中心が小説となり、小説の中心が「私小説」になるだろうとい

うことは、⑥。「私小説」の歴史的な意味は、「芸術」の価値に対する確信の失われた時代に、小説の価値に対する確信を維持するために——それさえも失われれば、小説がすべて商業小説になること、⑦周知の通りだ——小説から「芸術」を追い出すはかなかったということである。しかしそういつてしまつては、話が飛躍しすぎるだろう。
(加藤周一「現代日本文学の状況」より)

問一 傍線①・②のかたかなを漢字に改めよ。

問二 傍線⑦の「茶人にとつての『生活』」とは、何を意味しているか。最も適当と思われる言葉を、次の中から選び、その番号を記せ。

- ① 文化 ② 芸術 ③ 原点
- ④ 素材 ⑤ 目的 ⑥ 対象

問三 ⑧、⑨に入れるのに、最も適当と思われる言葉を、それぞれ次の中から選び、その番号を記せ。

- ① 小説 ② 芸術 ③ 価値 ④ 伝統
- ⑤ 歴史 ⑥ 生活 ⑦ 文学 ⑧ 崩壊

問四 ⑩に入れるのに、最も適当と思われる文を、次の中から選び、その番号を記せ。

- ① 当然な結論だ ② 残念な状態だ
- ③ 見易い道理だ ④ 悲しい帰結だ
- ⑤ 正当な論理だ

問五 傍線①の「周知」の意味を、十字以内で書け。

(3) 文化・科学論

POINT 1 基本

9

《品詞・内容吟味》

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今でも多くの若い人たちに愛唱せられている椰子の实の歌というのは、たぶんは同じ年のうちの製作であり、あれをもらいましたよと、自分でも言われたことがある。

① そを取りて胸に当つれば

新たな流離の愁ひ

という章句などは、もとより私の挙動でも感懷でもなかった上に、海の日沈むを見れば云々の句を見ても、あるいは詩人は今すこし西の方の、寂しい磯ばたに持つて行きたいと思われたのかもしれないが、ともかくもこの偶然の②遭遇によって、些々たる私の見聞もまた不朽のものになった。伊勢が③常世の波の重波寄する国であったことは、すでに最古の記録にも掲げられているが、それを実証しえた幾つかの事実の中に、椰子の实もまた一つとして数えられたことを、説きうる者はまだなかったのである。土地にはもちろんこれを知っている人が、昔も今も多かったにちがいないが、それを一国文化の問題とするには総合を要し、又はある一人のすぐれた詩人を要したのである。

問一 傍線①の部分から代名詞・動詞それぞれ一語ずつを抜き出して示せ。動詞は終止形で示すこと。

問二 傍線②は、何またはだれとの遭遇か。その名詞を示せ。

問三 傍線③の語の意義は次の項目のどれに相当するか。記号で示せ。

- ① 外国 ② 常夏の国 ③ 極楽 ④ 理想郷

〔東海大・改〕

POINT

解法のポイント

9

出典

柳田国男「海上の道」の一節。

柳田国男（一八七五～一九六〇）……国語学者・民俗学者。全国各地の方言を採録し、それを民俗学として体系づけた。「遠野物語」などは有名。

語釈

常世の国（とこよのくに）……古代日本民族が、遙かに離れた遠くにあると想定した国。不老不死の国とも、死人の国とも伝えられている。

ヒント

問一 文語表現であることに注意を要する。動詞を終止形で示すときに、その注意が必要。

ガンバッデー



10

《空欄補充・接続詞》

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

いけばなは、日本人の身振りの転換したものである。異論があるかもしれないが、私はそう思っている。(中略)

西洋人も草花を花瓶に投げ入れておくことを好む。西洋の女性も、自分の美を花の美になぞらえることを好む。自分がバラの花であつたり、かれんなフリージャの花であつたりする。

①()、日本のいけばなのように、たとえば梅の枝を剪り、曲がりにくい枝をたわめ、そこに微妙な感情表現をこめるといふことは絶えてしない。

美を誇示することは私たちにほしたなく思われる。それはナマの自我の表現であり、誇示である。それに対し、自分を一本の梅の枝にたとえ、そのようにして「**A**」された「自分」を、さらにもう一度「自分」の目で、ためつすがめつ手を加え、ある形にまとめあげる。

それは、抑制のきいた自分を文化の型の中で客観化し、美に仕上げてゆく過程である。いけばなは、(文化の型にひたされる、という意味での)「**B**」の表現なのである。「集団的個人」といわけ、社会化されることで初めて許される「**B**」の表現なのである。「集団的個人」

「個人的集団」という、あいまい領域、——習俗がまさにそこに根を下している領域での、これは芸術なのである。だから、西洋風にいえば芸術であるにもかかわらず、——日本風にいえば、**C**であるからこそ、才能の有無にかかわらず、猫も杓子もいけばなを習いに行く。

②()、習いに行けるのである。

問一 文章中の「**A**」「**B**」「**C**」に最適な語句を、次から選べ。

- A**
- ① 永遠化
 - ② 客観化
 - ③ 社会化
 - ④ 比喩化

- B**
- ① 自己
 - ② しぐさ
 - ③ 動作
 - ④ 身振り

- C**
- ① 芸ごと
 - ② 習俗
 - ③ 芸術
 - ④ 美術

問二 文章中の()①・②に最適な語句を、次から選べ。

- A** しかも **B** また **C** しかし **D** そして **E** すなわち

〔名古屋女子大・改〕

10

【出典】

多田道太郎「しぐさの日本文化」
『いけばな』の一節。

多田道太郎(西園)……フランス文学者。エスプリに富んだ鋭い視線での評論活動も行っている。この「しぐさの日本文化」は、日本文化を考えていくとき、参考になる。

【ヒント】

問一 **A**……次のセンテンスは、**A**のある文の言いかえといってもいい。だから、「自分を文化の型の中で客観化」という語句に相当するのである。

B……②・③・④で迷うが、一行目がヒント。

C……「西洋風にいえば」に対して、「日本風にいえば」とあることに注目。



5x22 標準

11

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

文章というものはそんなに骨を折らん方がよい。あいつは虫が好かぬ奴だと思った時には「あいつは虫①の好かぬ奴だ」と書く②の一番よい。自分の腹③の底から出る声には力がある。力④のない声は人に通らぬ。思うとおりに書けば最も力あるものが出来るのである。世間ではよく俗語とか雅語とか分けるけれども、一体そんな区別はあるべき筈⑤のでもない。自分に美しい心があればその言葉は俗語でも何でも皆美しい。つまり頭の修業であって文章⑥の修業ではない。どんなに思う所を書いているうちに自然にその人⑦の型が出来てくる。型が出来ればそれは泥溝に落ちたも同様だ。⑧また泥溝から上って型を破らないといけない。新聞記事を書かせても、なまじい文章⑨の出来る奴はかえっていけない。⑩成語成句にとられて観た所をありのままに書けない。すべて⑪上等になってしまふ。例えば富士山でも浅間山でも天城山でも皆同じ様な形容詞で書いてしまつて、一つ一つの山の特徴も分らない。何も知らん奴の方がかえって富士山は富士山らしく、浅間山は浅間山らしく書く。なぜなれば富士山を観たとおりに書くから富士山しか外にない事が現われて来る。なるべく在来の言葉をしりぞけて、その場合に真実浮んだ感じを正直に書くがよい。文章は決して形式に拘泥⑫すべきものではない。自由に大胆に思うままに書くべきものだ。初めから勿論⑬旨く書けない。まずくてもよい。段々上手になつて行く。真実に

書きさえすれば、まずい所にも人を惹く力がある。小説などむしろまずい方が旨い。初心⑭な所に新鮮の味⑮を感ずる。玄人⑯になるといけぬ。玄人になりながら素人⑰になる人がよい。⑱

(山路愛山「漢文と文章」とに志ある青年の為に」より)

問一 問題文は段落なしになっているが、結びの段落をもうけるとすれば、どこからが適当か。その部分の冒頭の三字を書き抜いて示せ。

問二 波線②の部分と、よく似た言いまわしで、しかも同様な趣旨の一文を問題文中よりさがし、その文の初めの二字と終わりの二字を書き抜いて示せ。ただし句読点は数えない。

問三 傍線③の語に、最も近い意味で用いられている五字以内の語句を、問題文中よりさがし、書き抜いて示せ。

問四 傍線④の「の」と同じ文法的機能を持つ「の」を、㉑㉒から二つ選べ。

問五 線⑤の語の、ここでの意味として、最も適切なものを、次の㉓㉔から一つ選べ。

㉑ すばらしい文章 ㉒ ありきたりの文章 ㉓ 見ばえがよいだけの文章 ㉔ 個性的な文章 ㉕ 修飾過多の文章

問六 (次問) 文末の空欄⑥に、最もふさわしいものを次の㉖㉗から一つ選べ。

- ㉖ 文章というのは実は骨の折れるものだ。
- ㉗ 文章でも初心⑭ということを失うと駄目だと思ふ。
- ㉘ 文章の秘訣⑮は頭と心にある。
- ㉙ 文章はまずさの中のうまさ⑯ということが大切だ。
- ㉚ 文章は結局、新鮮でさえあればどう書いてもよいのだ。

12

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

自分がかつて津田青楓画伯が初心者にソビエトを教える言葉を知ったことがある。画伯は石膏の首を指さしながら言った。諸君はあれを描くのなどと思うと大間違いだぞ、観るのだ、見つめるのだ。見つめている内にいろんな物が見えて来る。こんな微妙な④□□があったかと自分で驚くほど、いくらでも新しいものが見えて来る。それをあくまでも見入って行くうちに手がおのずから動き出して来るのだ。——この言葉は恐らく画伯自身が理解していたよりも一層重大な意味を含んでいるであらう。「観る」とはすでに④一定しているものを映すことではない。無限に新しいものを見いだして行くことである。だから観ることは直ちに④□□に連なる。しかしそのためにはまず純粹に観る立場に立ち得なくてはならない。単に④手段として観るのならば、目的に限定せられた範囲以上に観る働きは進展しない。観の無限の発展は手段的性格からの解放、従って観の自己目的性を前提とする。ギリシアの市民はちょうどこの立場に立って、互いに観ることを競ったのである。

そこでギリシア的風土がその無限の意義を発揮するコウキの到来となる。ギリシア人はあの明朗な、陰のない自然を観た。そこにはあらゆる物の④「形」が比類なく鮮やかにながめられる。しかもその観は互いに競うことにおいて無限に発展する。それは対象的な自然が無限に精細に観察せられたということではなくして、実は観るところの主体が観ることにおいて自ら発展したことにほかならない。だから明朗なる自然をながめる立場は直ちに明朗なる主体的存在を發展せしめたのである。そうしてそれが明朗なる「形」として、

あるいは彫刻や建築に、あるいはアイデアの思想に、表現せられたのであった。
(和辻哲郎「風土」より)

問一 傍線を施したかたかなの語を漢字で書け。文字は楷書ではつき書くこと。

問二 傍線③と同じ意味の七字以内の語句を文中よりさがし、書き抜いて示せ。

問三 傍線⑩と反対の意味の五字以内の語句を文中よりさがし、書き抜いて示せ。

問四 空欄①・⑧に、最もふさわしい語を、次の⑦①④からそれぞれ一つ選べ。

④ (ア)色 (イ)線 (ウ)影 (エ)心 (オ)点

⑧ (カ)実証 (キ)発展 (ク)冒険 (ケ)実験 (コ)創造

問五 ⑥傍線⑥の意味として、最も適切なものを次の⑦①④から一つ選べ。

⑦ 人間が力を合わせその合意によって作り出してゆくもの。

① 人間が観る観ないにかかわらず客体としてそこにあるもの。

② 人間が観ることによって製作の心がつき動かされるもの。

④ 人間が線や図形として対象の中に見出すもの。

問六 筆者和辻哲郎に、最も強い影響を与えた文字者を次の⑦①②から一人選べ。

⑦ 幸田露伴

① 森鷗外

④ 島崎藤村

② 武者小路実篤

③ 芥川龍之介

⑤ 夏目漱石

(早稲田大・改)